



設計演習Ⅱ

課題
プログラムの変容と再構築
Space for Arts
(芸術のための空間)

4年

担当=
高宮 真介

近藤 創順

PHASING GALLERY

この計画は既存の建築のプログラムが現在の用途から変容し、芸術のための空間となるものである。対象となる建築は、飯田橋に存在する紙流通センターである。ここは印刷用の大型ロール紙を貨物列車によって搬入しトラックによって各地へ運ぶ物流拠点であったが、現在は徐々に運搬物も減少し、都心に巨大

な土地を占領して2年後の取り壊しを控えている。そこでその余剰空間を芸術空間に変容させるものである。

指導=高宮 真介

アートワークが四角い部屋で、額縁に納まって壁に掛けられたり、台座に乗って陳列される。そんな美術館に対するプログラムの変容と再構築が、20世紀後半のこのビルディングタイプの歴史であったといえる。そのジャンルが平面、立体という枠から脱却し、メディアアートからランドアートまで、非常に多様化の時代を迎えるに至り、その展示方法もインスタレーションとかサイトスペシフィック、

そしてパフォーマンスやストリートミュージアムといった具合に多彩なものとなった。特に使われなくなった倉庫や工場の建物が好んで利用されたのも、そのようなインスティテュショナルな美術館の変容と再構築を物語っている。この案は、都心の取壊しが決まっている巨大な倉庫を、そのような視点でインスタレーションの舞台とし、順次解体されるにしたがって、高速道路に面した壁面にアートワークのレイヤーが現出されるという極めて興味深い提案をしている。つまり時間というファクターが挿入されたSpace for Artsという意味で優れた案となっている。